

三菱食品株式会社 2017年度(2018年3月期) 第2四半期決算説明会

2017年11月8日

目次

1

2017年度(2018年3月期)第2四半期(2017年4～9月)
決算概要

2

経営方針2020の実行状況

1. 2017年度(2018年3月期) 第2四半期(2017年4～9月) 決算概要

2017年度(2018年3月期)第2四半期 連結業績(前期比)

(単位:億円)

	2016年度	2017年度	
	実績	実績	前期比
売上高	12,060	12,543	483
営業利益	80	70	▲11
経常利益	86	78	▲8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	62	56	▲7
1株当たり 四半期純利益(円)	109.21	97.28	▲11.93
1株当たり配当金(円)	25.00	25.00	—

- ◆ 売上高は、CVS等を中心に取引が総じて堅調に推移し、増収
- ◆ 利益面は、物流費を中心とした販管費の増加により減益
- ◆ 配当は、基本方針である安定配当を継続

2017年度(2018年3月期)第2四半期 品種別売上高(前期比)

(単位:億円)

	2016年度		2017年度		前期比増減	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	率(%)
缶詰・調味料類	1,345	11.2	1,364	10.9	19	1.4
麺・乾物類	742	6.2	754	6.0	11	1.5
嗜好品・飲料類	1,413	11.7	1,453	11.6	40	2.9
菓子類	1,333	11.1	1,414	11.3	81	6.1
冷凍食品類	2,454	20.3	2,574	20.5	120	4.9
チルド食品類	2,127	17.6	2,198	17.5	71	3.3
ビール類	1,135	9.4	1,186	9.5	51	4.5
その他酒類	898	7.4	959	7.6	61	6.8
その他	612	5.1	641	5.1	29	4.7
合計	12,060	100.0	12,543	100.0	483	4.0

- ◆「菓子類」は、チョコレートの好調等により増加
- ◆「冷凍食品類」は、市販用冷凍食品の好調等により増加
- ◆「チルド食品類」は、乳酸菌飲料、野菜飲料の伸長等により増加

2017年度(2018年3月期)第2四半期 業態別売上高(前期比)

(単位:億円)

	2016年度		2017年度		前期比増減	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	率(%)
卸売	983	8.2	1,049	8.4	65	6.6
GMS	1,012	8.4	1,025	8.2	13	1.3
SM	4,469	37.0	4,449	35.5	▲19	▲0.4
CVS	3,786	31.4	4,118	32.8	332	8.8
ドラッグストア	505	4.2	541	4.3	36	7.2
ユーザー	302	2.5	305	2.4	3	1.0
その他直販	842	7.0	894	7.1	52	6.2
メーカー・他	161	1.3	162	1.3	1	0.3
合計	12,060	100.0	12,543	100.0	483	4.0

◆「SM」は、採算管理強化による取引見直し等により微減

◆「CVS」は、取引の拡大、新規出店効果等により増加

2017年度(2018年3月期)第2四半期 セグメント別業績(前期比)

(単位:億円)

	売 上 高				営 業 利 益		
	2016年度	2017年度	増減額	増減率(%)	2016年度	2017年度	増減額
加工食品	3,722	3,798	75	2.0	19	11	▲8
低温食品	4,898	5,109	211	4.3	57	53	▲4
酒類	2,102	2,222	120	5.7	▲0	0	1
菓子	1,328	1,405	77	5.8	9	10	1
その他・調整	9	9	▲0	▲2.2	▲4	▲4	▲0
合 計	12,060	12,543	483	4.0	80	70	▲11

※2017年度の組織のセグメント見直し及び決算調整項目の見直しに伴い、2016年度実績を組替えております。

- ◆加工食品 : CVS等との取引伸長により増収も、物流費等の販管費増により減益
- ◆低温食品 : CVS等との取引伸長により増収も、物流費等の販管費増により減益
- ◆酒 類 : CVS等との取引伸長、酒税法改正の影響等により増収増益
- ◆菓 子 : CVS、ドラッグストアとの取引伸長により増収増益

2017年度(2018年3月期)第2四半期 特別損益明細(前期比)

(単位:億円)

	2016年度	2017年度	
	実績	実績	前期比
投資有価証券売却益	9	3	▲6
固定資産売却益	0	2	2
【 特別利益 】 計	9	5	▲4
災害関連費用	1	—	▲1
その他	1	1	0
【 特別損失 】 計	2	1	▲1
特 別 損 益	8	5	▲3

- ◆特別利益は、前期に計上した有価証券売却益の反動減により減少
- ◆特別損失は、前期に計上した熊本地震の災害関連費用が減少

2017年度(2018年3月期)第2四半期 B／S(前期比)

(単位:億円)

	2016年度	2017年度 第2四半期	
	3月末	9月末	前期比
流動資産	4,990	5,918	928
固定資産	1,215	1,285	70
総資産	6,205	7,204	999
流動負債	4,430	5,363	933
固定負債	198	213	15
負債合計	4,628	5,576	948
純資産	1,577	1,627	50
1株当たり純資産(円)	2,759.33	2,847.07	87.74
自己資本比率	25.4%	22.6%	▲2.8P

2017年度(2018年3月期)第2四半期 設備投資等の状況

(単位:億円)

	第2四半期実績		【ご参考】 年間計画	
	投資額	償却額・ 支払リース料	投資額	償却額・ 支払リース料
設備投資(リース含む)	57	26	121	58
システム開発等	16	10	38	21
合 計	73	35	159	79

- ◆ 設備投資は、新設物流センターの設備工事等が中心
- ◆ システム開発等は、次世代基幹システム「MILAI」構築に対する投資

2017年度(2018年3月期) 業績予想

(単位:億円)

	2016年度		2017年度		前期比	
	実 績	売上比 (%)	業績予想	売上比 (%)	額	率(%)
売上高	24,115	—	25,000	—	885	3.7
営業利益	178	0.7	182	0.7	4	2.1
経常利益	189	0.8	192	0.8	3	1.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	124	0.5	125	0.5	1	0.9
1株当たり当期純利益(円)	216.86	—	218.77	—	1.91	—
1株当たり配当金(円)	50.00	—	50.00	—	—	—

2.「経営方針2020」の実行状況

わが社を取り巻く環境の再認識

社 会

人手不足

技術革新

働き方改革

省人化
省力化
ダイバーシティ

製造業

原料不足と原料価格高騰

国内市場の限界

事業ポートフォリオの見直し

調達・販売
海外戦略

生活者

生活防衛

地方と都市の格差拡大

ニューエコノミカル層の主流化

二極化
進行への
打ち手

小売業

合従連衡

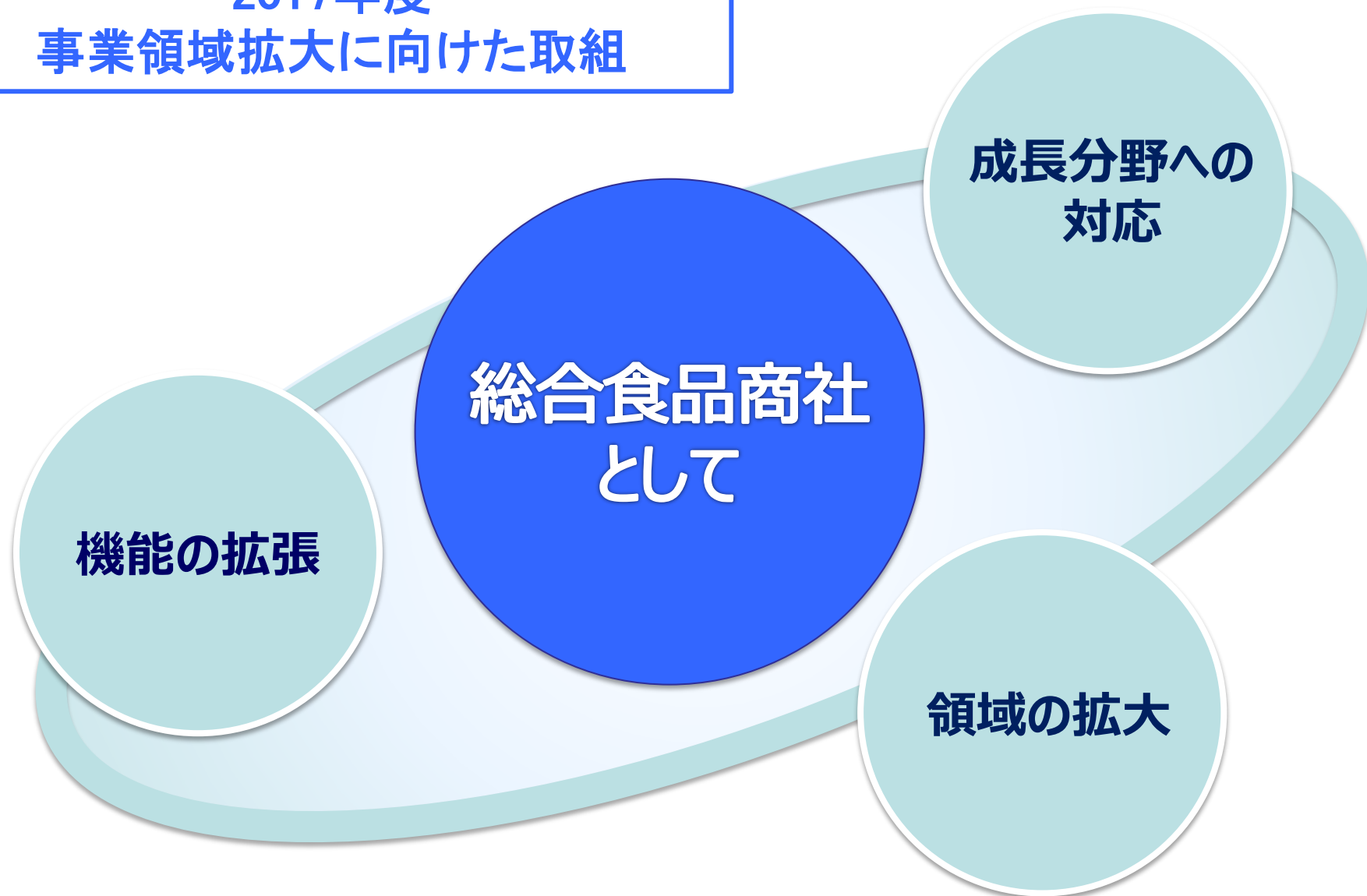
業態間競争の激化

エリア対応

多様化する
ニーズの
追跡

2017年度取組みの実行状況

2017年度
事業領域拡大に向けた取組



2017年度 上半期の取組み評価

取組方針	実施施策	進捗評価
成長分野への対応	➤ 3本部の新設 ✓ 中食・外食業態伸長に対応 「デリカ本部」「フードサービス本部」 ✓ 生協業態伸長に対応 「ライフネット本部」	好 調 対面力強化、 売上拡大中
機能の拡張	➤ 次世代を見据えた デジタル活用 ✓ 「ウェアラブル端末」等の新規拠点への導入 ✓ 「SENSY」を活用したAIマーケティング深耕	順 調 今後、効果検証と 更なる拡大へ
領域の拡大	➤ 商品開発・ディストリビューター 事業の展開 ✓ 「オリジナル商品」「輸入商品」の拡売	順 調 更なる拡売に向け 取組み推進

下半期の更なる利益獲得に向けて

経営方針2020で
目指す姿

“より良い”を積み重ねて、日本の食を支える

販売強化・ 販売戦略の見直し

成長業態対応

法令改正に沿った
販売戦略見直し

輸入・PB商品
販売体制強化

総合食品商社
として

ローコスト オペレーション

物流拠点見直し

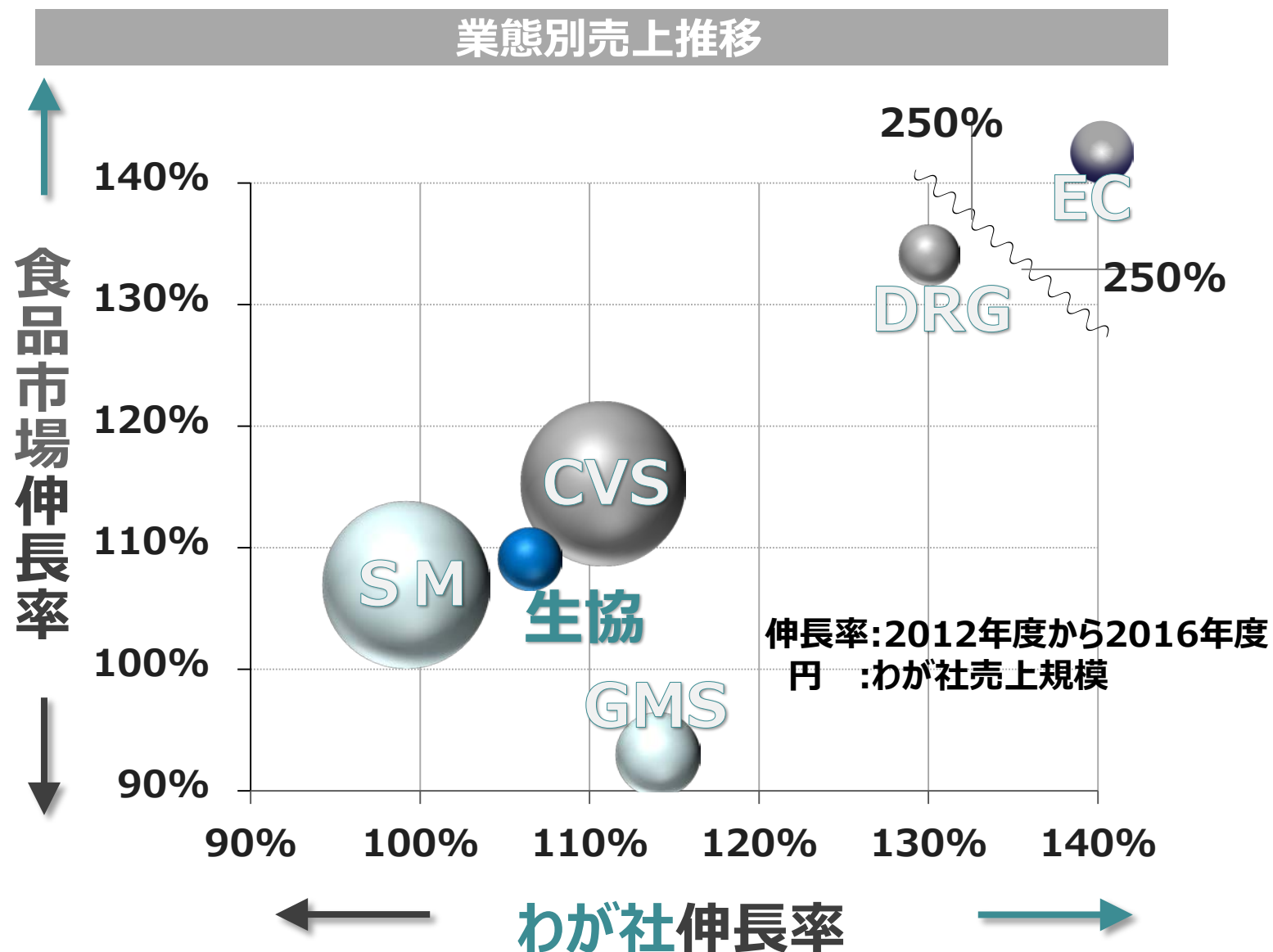
物流協業の取組

自社アセットの活用

発注精度改善

下半期の更なる利益獲得に向けて

販売強化・販売戦略の見直し



下半期の更なる利益獲得に向けて

販売強化・販売戦略の見直し

成長業態対応



デリカ



フードサービス



生協

法令改正に沿った 販売戦略見直し



ビール需要減に対する高付加価値売り場提案

輸入・PB商品 販売体制強化



オリジナル輸入品



PB・開発商品

下半期の更なる利益獲得に向けて



はじめよう! がんばりすぎない 糖質コントロール



おいしく、かんたんに、がんばりすぎない
糖質コントロールが継続のヒケツ!



からだシフト・糖質コントロールシリーズは、
幅広い商品ラインナップだから毎日続けられる!



下半期の更なる利益獲得に向けて



株式会社 エム・シー・フーズ



下半期の更なる利益獲得に向けて

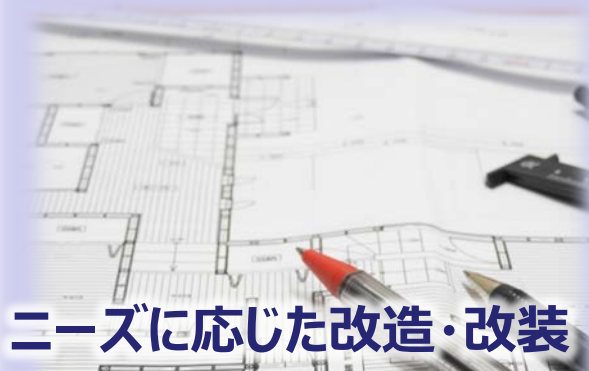
経営方針2020で
目指す姿

“より良い”を積み重ねて、日本の食を支える



下半期の更なる利益獲得に向けて

ローコストオペレーション



ニーズに応じた改造・改装

低温ニーズに対応した
自社アセットの最大活用



自動発注活用

拠点再編のローリングに
よる配送費削減



拠点の最適配置

物流機能を通じた
ローコスト
オペレーションの
深耕

メーカー・同業他社との
物流協業の取組み拡大



川上/川下物流との連携

在庫最適化による
食品廃棄ロス削減

下半期の更なる利益獲得に向けて

ローコストオペレーション



サプライチェーン
イノベーション大賞
2017
Supply chain Innovation Award

下半期の更なる利益獲得に向けて

ローコストオペレーション

社会環境や食品物流環境の変化＝「企業の枠を超えた共通課題」

軽油価格
上昇

最低賃金
上昇

労働力
減少

小口化と
納品リードタイム
短縮

顧客ニーズ
多様化と
SKU増

原料生産

製造

三菱食品

小売

生活者

配送効率化

最適発注

返品削減

製・配・販を一気通貫し、食品流通の“より良い”に貢献

経営方針2020実現に向けて

経営方針2020
実現に向けた
3つのアプローチ

総合食品
商社として

三菱商事
グループとして

中核を目指す
企業として

2012 – 2015

2016 – 2020

中期経営計画2015

経営方針2020

バリューチェーン・
コーディネーター

“より良い”を積み重ねて日本の食を支える

